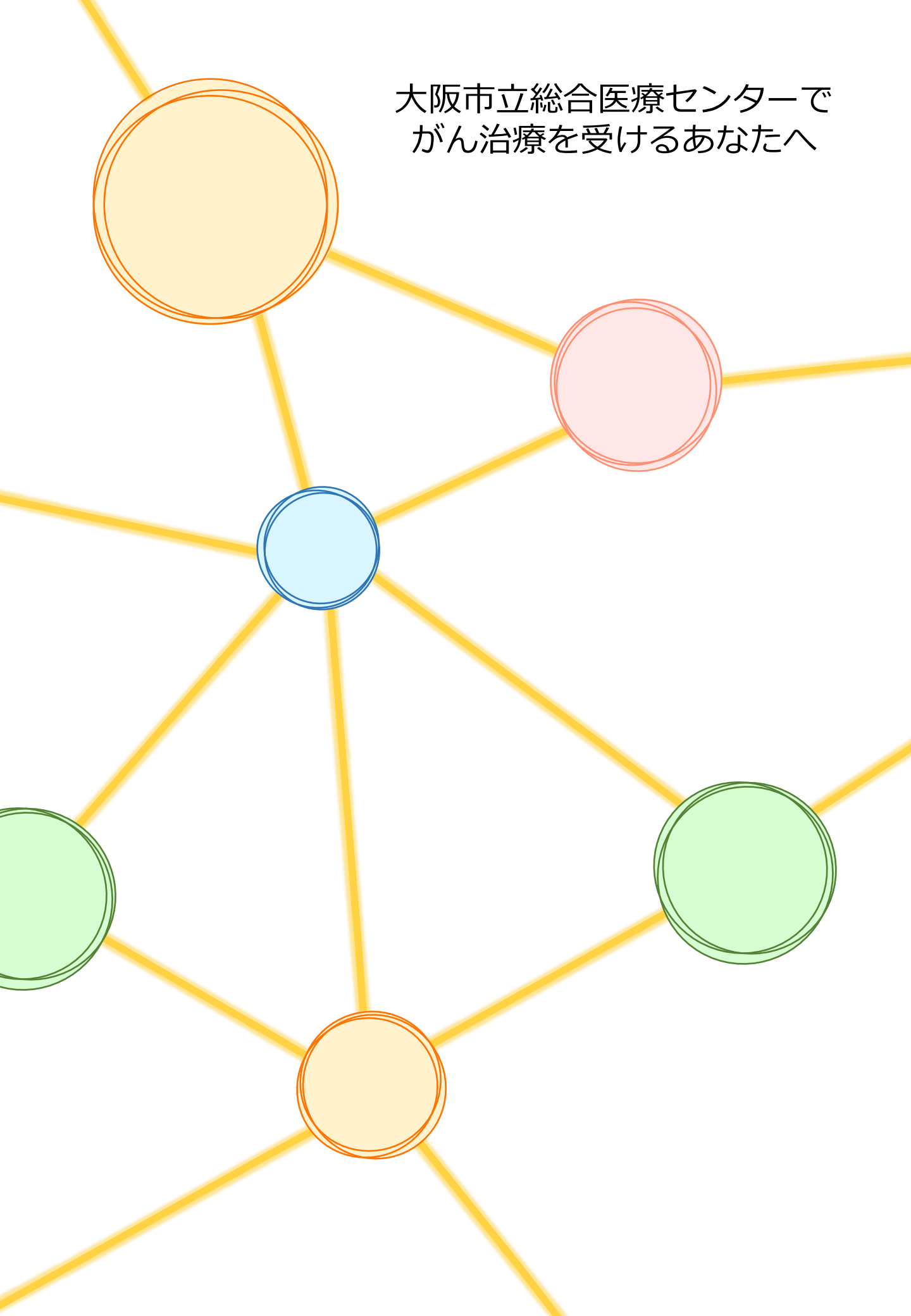


大阪市立総合医療センターで
がん治療を受けるあなたへ



大阪市立総合医療センターには、あなたやご家族が『がん』だとわかった時から、がんの治療や療養をサポートする、さまざまな体制があります。がん患者さんやご家族へのサポート体制を、この一冊にまとめましたので、是非お役立てください。

がん治療を受けられる皆様へ

今日、がんは2人に1人とも言われていますように、誰もがかかる可能性のある病気ですが、がんと診断されると、やはり不安になってしまふと思います。がんの治療で大事なことは、その不安を誰かに相談することだと思います。

がんに対する治療は日々進歩していますし、安心して治療を受けて頂けるように皆様をお支える環境が整っています。医師は専門的な知識と経験をいかし、ありとあらゆる可能性を考えて治療します。治療の際には不安に思っていることを伝えてみてください。もちろんそれは医師である必要はありません。はじめは不安に思っていることが漠然としていても、話しているうちに整理されることもありますし、誰に何を相談したら良いか明らかになることもあります。そこからいろいろなサポートの輪が広がっていきます。

がん治療には手術、薬物治療、放射線治療と様々な方法があります。私は外科医ですが、手術の場面一つをとっても明らかに進歩しています。ロボット手術をはじめ、体への影響が少なくなるよう医療機器、技術が進歩しています。創は小さく、痛みが少なく、いち早く日常に戻ることができます。術後は、栄養士や薬剤師もサポートしますし、緩和ケアチームが身体と心の両方を支えます。退院支援で退院後の療養環境を整えます。

病院には医師だけでなくいろいろな専門家がいます。誰にでも何でも相談してください。皆様と我々が一緒になって、よりよい医療を考える時代です。安心して治療を受けて頂けるよう、私たちは全力を尽くします。



大阪市立総合医療センター
病院長 清水 貞利

目次

- 不安・つらさ・悩みを相談したい
 - └ がん相談 P 1
 - └ 緩和ケア P 3
 - └ 社会資源に関する活用 P 4
- まわりのがん患者さんやご家族と話したい
 - └ 交流の場 P 5
- がんの情報を調べたい
 - └ 情報収集 P 7
- 将来子どもをもつことについて知りたい
 - └ 妊よう性温存 P 9
- 小児がんへの支援について知りたい
 - └ 小児がん P 11
- がんゲノム医療について知りたい
 - └ がんゲノム医療 P 13
- 見た目の変化(抜け毛、肌荒れなど)について知りたい
 - └ アピアランスケア P 15
- 施設紹介 P 16

がん相談

当院には、がん患者さんとそのご家族の治療上の不安や悩みに対応するために「**がん相談支援センター**」を設置しています。

がん相談員が、不安や悩み・困りごとに対しても考え、より良い方法を見つけるお手伝いをします。

【主な相談内容】

- | | |
|-----------------|-------------|
| ○がんに関する不安や精神的苦痛 | ○妊よう性温存(※2) |
| ○療養生活 | ○がんの予防や健診 |
| ○学校や仕事との両立 | ○セカンドオピニオン |
| ○医療費、生活費、社会保障制度 | ○ホスピス・緩和ケア |
| ○がんの治療や副作用 | ○がんサロン・患者会 |
| ○がんゲノム医療 | |
| ○アピアランスケア(※1) | |
| ○受診方法 | |

※1 アピアランスケア：治療にともなう外見の変化に対するサポート

※2 妊よう性温存：将来子どもを授かる可能性を残すための治療



| | |
|------|--|
| 窓 口 | 1階 総合医療相談窓口 |
| 受付時間 | 平日 9:00~16:00 (年末年始を除く) |
| 電話番号 | 06-6929-3632 |
| 相談費用 | 無料 |
| 相談方法 | <p>面談、電話（予約不要）</p> <p>★面談をご希望の方は直接窓口へお越しください。</p> <p>★入院病棟や外来化学療法室などに相談員がお伺いすることも可能です。まずはお近くのスタッフへ「がん相談希望」とお声かけください。</p> |



がん相談支援センター
ホームページはこちら



1階ロビー



総合医療相談窓口

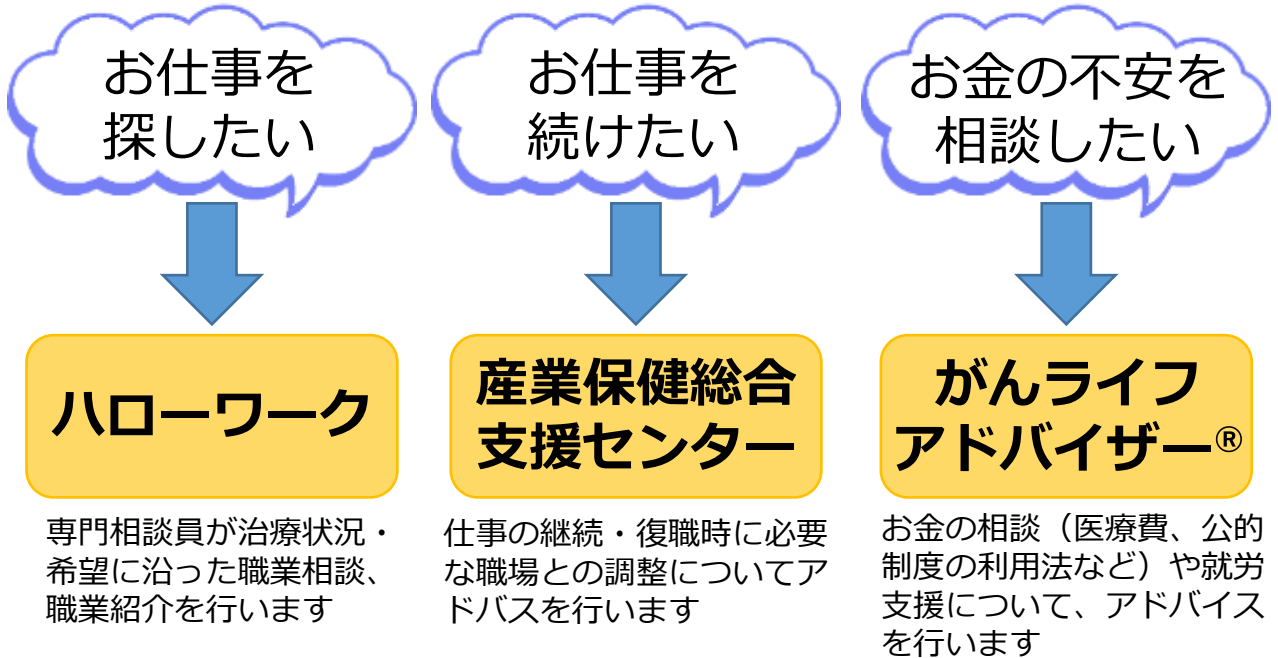


相談室内の様子

治療と就労の両立支援相談

がん相談支援センターでは、治療をしながら働く上でのご相談にも対応しています。

必要に応じて、専門家（ハローワーク、産業保健総合支援センター、がんライフアドバイザー®）による予約相談も実施しています。



専門家による相談は完全予約制・無料です。
まずは、がん相談支援センターにご相談ください。

セカンドオピニオン

※セカンドオピニオンとは…納得のいく治療法を選ぶことができるように、主治医とは別の医療機関の医師に第二の意見を求めること。（診察や検査を受けることではありません）

当院の患者さんで、他の医療機関でセカンドオピニオンをご希望の方は、主治医または総合医療相談窓口にご相談ください。

➡ セカンドオピニオン用診療情報提供書（保険適応）および必要な検査資料を提供します。準備には日数を要しますので、早めにお申し出ください。



セカンドオピニオン
について

他の医療機関の患者さんで、当院にセカンドオピニオンをご希望の場合はお申し込みが必要です。

←詳細はホームページをご覧ください

緩和ケア

緩和ケアは、痛みをはじめとした身体の症状やこころのつらさなどの苦痛をやわらげ、患者さんやそのご家族が自分らしい生活を送れるよう支えていくケアです。

緩和ケアは特に、がんと診断された時から、自宅や病院（入院・外来）その他の施設など、どこでも受けることができます。

当院には、医師をはじめ、さまざまな専門家がチームを組んだ「**緩和ケアチーム**」があります。

「痛くて動けない」「便秘で困っている」「不安で眠れない」などの症状やお困りごとに対して一緒に考え、自分らしい生活ができるようにサポートします。

適切なケアを受けると、生活の質は大きく改善します。

一人で悩まず、ご希望の方は主治医または看護師にお申し出ください。

身体と心、生活のつらさに関する問診

がんと診断された方を対象に、定期的に問診を実施しています。つらさの内容により、専門のスタッフがサポートします。



看護師によるカウンセリング

病状説明時の看護師同席や診察前後のカウンセリングを行っています。ご希望の際は、担当医師へお知らせください。



あなたと家族の不安が少しでも軽くなるように寄り添います。そして、納得して治療を決めることができるよう支援します。

緩和ケアが提供される場

通院

緩和ケア外来
毎日(月～金曜)

薬物治療・放射線治療の通院中に、外来でお薬の調整などができます。

自宅

自宅で療養しながら、緩和ケアを受けられます。

往診医や訪問看護師と在宅緩和ケアチームを作り、必要時は共同訪問を行います。

入院

緩和医療科医と看護師が病室にうかがい、主治医や病棟看護師とともに診療・ケアにあたります。

今後の療養場所（緩和ケア病棟や自宅など）も一緒に考え、納得できる選択を支援します。

緩和ケア病棟

症状や苦痛を和らげる治療やケアを専門的に受けられます。

症状が安定すれば、退院することも可能です。



緩和ケアセンター
ホームページはこちら

社会資源の活用

患者さんやご家族が治療を受ける上での不安や困り事について、医療ソーシャルワーカー（MSW）と一緒に考え、解決に向けたお手伝いをしています。

例えば、仕事や学業を続けながら治療していくこと、介護福祉サービスの活用、緩和ケアを提供してくれる医療機関探しなどについて、各種関係機関と連携しながら支援し、患者さんの療養生活と社会復帰をサポートしていきます。

以下のようなリーフレットを作成し、患者さんの世代に応じた社会資源のご紹介を行っています。1階のパンフレットラックなどに設置しています。



心配事やお困りのことがあれば主治医や看護師にお申し出いただくか、がん相談支援センターへ直接ご相談ください。内容に応じて医療ソーシャルワーカーが対応させていただきます。

地域連携について

がんの治療は、病院だけでなく地域のかかりつけ医、薬局、訪問看護師、ケアマネジャーなど様々な専門職と役割分担しながら行っていきます。必要なサービスや専門職による支援を受けることは特別なことではありません。

お住まいの地域の社会資源を有効活用することで、患者さんに安心して治療を継続していただけるよう、私たちは地域連携を大切にしています。

交流の場



交流の場
ホームページはこちら

がんサロン



お互いの体験を語り合ったり、悩みを共有できる場、資料で情報を得る場などとしてご自由にお使いいただけます。

- ◆ 開催日 毎月 第4金曜日
- ◆ 時間 10:30~12:00
- ◆ 場所 3階 さくらホール前ロビー
- ◆ 申込 不要

緩和ケアセンター主催 ヨガと語りの場「マイペースヨガ」



がんと向き合う患者様およびご家族が、その日の体調や気持ちに合わせて、自分のペースで参加できるやさしいヨガです。詳細は院内掲示のポスター、ホームページをご参照ください。

ピアサポート相談室「はぐ」

ピアサポーター(がん経験者)と1対1でお話できる相談室です。ご自身の体験やモヤモヤしたお気持ちを話してみませんか？



ピアサポーター
(乳がん経験者)

- ・乳がん体験者
コーディネーター(BEC)
- ・がん哲学外来認定
コーディネーター

- ◆ 開催日 毎月 第4金曜日
- ◆ 時間 13:20~15:30
(1人40分×3枠)
- ◆ 場所 1階 がん相談支援センター
- ◆ 申込 不要 (当日、相談室前設置の整理券をお取りください)

『心はモヤモヤしてるけど相談するほどじゃないわ。』
『相談事は無いけど、なんか気が重いねん。』

そんな方も気軽に立ち寄って頂き、お気持ちを聴かせてください



患者会 ルピナス



仲間といろいろな思いを語り合える場です。
がん患者さん・ご家族・ご友人等、どなたでもご参加いただけます。

- ◆ 開催日 毎月 第2水曜日
- ◆ 時 間 15:00~17:00
- ◆ 場 所 3階 さくらホール前ロビー
- ◆ 申 込 不要

小児血液腫瘍科 外来交流会

 子ども・AYA世代向け



退院後途切れがちな病院の仲間とのつながりを維持し、孤立を防ぐことを目的に制作活動等を行っています。

- ◆ 開催日 年3回程度
- ◆ 時 間 13:30~15:30
- ◆ 申 込 不要

その他詳細は院内掲示のポスター、ホームページをご参照ください。




← 暑中お見舞いはがき

クリスマスカード →



てらこや (学習支援)

 子ども向け



学生ボランティアが、外来通院の患児と学習支援や制作活動を行います。

- ◆ 開催日 月1回程度
(外来待合に開催案内を掲示)
- ◆ 場 所 2階 集団治療室
- ◆ 申 込 不要

情報収集

がん情報コーナー



がんに関する情報の配架場所
ホームページはこちら

1階ロビーに、がんの種類に応じた冊子（国立がん研究センター発行）、
がんに関する案内や情報を置いています。



- ・がん相談支援センター
- ・がんサロン
- ・ピアサポート相談室はぐ
- ・治療と就労の両立支援
- ・ウィッグ案内
- ・イベント情報
- ・他各種案内



がんの冊子
国立がん研究センター発行

患者図書室 やわらぎ空間さくら — みんなの医療情報AからZまで —

書籍で病気や治療について調べることができるほか、がんの種類に応じた
冊子（認定NPO法人キャンサーネットジャパン発行）、がんに関する情報
を置いています。



- ◆ 利用時間 月曜日から金曜日の10時から17時
(土曜・日曜・祝日・年末年始は閉室)
- ◆ 場 所 5階 コンビニエンスストア横
- ◆ 貸出対象 当センターに入院中の患者さん
貸出冊数：1回4冊
貸出期間：1週間



患者図書室
ホームページはこちら

※入室・閲覧は外来患者さん、ご家族、その他一般の方も可能です



がん医療について

がん(主に成人がん)に関する取り組みやイベント情報を掲載しています。



がん医療について

小児・AYA世代のがん医療について

小児・AYA世代のがんに関する取り組みやイベント情報を掲載しています。



小児・AYA世代のがん医療について

がんゲノム医療について

がんゲノム医療について、受診の流れなどを掲載しています。



がんゲノム医療について

がん患者さん・ご家族への支援

当院でがん患者さんやご家族が受けられる支援についてまとめています。



がん患者さん・ご家族への支援一覧

がんに関するWeb公開講座



がんの治療や療養生活についての動画を公開しています。



がんに関するWeb公開講座

外部ホームページ

がん情報サービス

がんの治療や療養生活、がんの統計、医療機関などの情報をご覧ください。がんの冊子の電子版、音声版のダウンロードもできます。



がん情報サービス

大阪がん情報 (大阪国際がんセンター)

大阪府のがんの統計、臨床試験、妊よう性温存、各種パンフレットなど、府内のがんに関する情報をご覧ください。



大阪国際がんセンター

おおさか がん ポータルサイト (大阪府)

大阪府でのがんに関する取り組み、相談、予防など、さまざまなトピックスをご覧ください。



おおさか がんポータルサイト

妊よう性温存

妊よう性とは、子どもを授かるために必要な力のことです。

がんの治療では、手術をはじめ抗がん剤や放射線治療によって、子どもを授かるために必要な臓器がダメージを受けることがあります。

妊よう性温存治療とは、将来自分の子どもを授かる可能性を残すために、がん治療の前に、卵子や精子、受精卵、卵巣組織の保存を行う治療のことです。

当院では、ご希望に応じて妊よう性温存治療の実施が可能な施設をご紹介します。

お話を聞いてみたいという方は、主治医やがん相談支援センター、お近くのスタッフへご相談ください。

がんの診断

がん治療が最優先ですが、可能な限り早期に、

- ・ 治療が妊よう性に与える影響
- ・ 治療開始までの時間的猶予と実施可能な温存治療

について主治医から説明します。

必要に応じて、がん相談支援センターの看護師や医療ソーシャルワーカーが、補足説明や治療選択のサポートをします。パンフレットもお渡ししますので、お気軽にご相談ください。

妊よう性温存治療

妊よう性温存を希望されない方は、がん治療を開始します。

希望される方は、当院から**妊よう性温存療法の実施が可能な施設を紹介**します。

妊よう性温存治療は自費診療となり、一旦は患者さんに全額お支払いいただきますが、治療内容や年齢などによっては自治体から**助成金**を受けることができます。

詳しくは、お住まいの自治体ホームページをご確認ください。

がん治療

妊よう性温存治療後、がん治療を開始します。

温存後補助療法

がんの治療後、妊娠を希望する際に、保存していた卵子や精子、受精卵、卵巣組織を使用して、妊娠を目指します。



妊よう性温存に関する情報

大阪がん・生殖医療ネットワーク（ホームページ）

大阪府でがん治療を受ける方に向けて、妊よう性や生殖機能の温存治療についての説明や、実際に治療を受けられる施設をご紹介します。



大阪がん・生殖医療ネットワーク
ホームページ



パンフレットも掲載されています ↑

大阪府がん患者等妊よう性温存治療費等助成事業（ホームページ）

妊よう性温存治療や、温存後生殖補助医療にかかる費用の一部の助成について説明しています。



大阪府がん患者等妊よう性温存治療費等助成事業
ホームページ



パンフレットも掲載されています ↑

院内パンフレット「妊孕性温存とその支援の選択肢について」



妊よう性温存に関する医療的な支援だけでなく、助成事業や社会的な支援について紹介しています。



妊孕性温存とその支援の選択肢について
(パンフレット PDF)

小児がん

院内学級

小児病棟に府立光陽支援学校分教室（小学部・中学部）の院内学級を設置しています。入院中の児童・生徒が治療を受けながら義務教育を受けられます。ご希望の方は主治医とご相談ください。



療育相談室

学校や保育所との連携に関する相談に対応します。電話のほか、日時を決めた面談でのご相談も可能です。病院代表電話（06-6929-1221）にて、「療育相談室」とお伝えください。

子どもサポートチーム、AYAサポートチーム

子どもや家族がよりよく過ごせることを目的に、症状緩和、精神的ケア、学習支援、就労支援等、多様なニーズに多職種で対応しています。

チームへのご相談は、まず主治医や病棟看護師にお声がけください。



子どもサポートチーム
ホームページはこちら

勇気のビーズプログラム

協力：認定NPO法人 シャイン・オン！キッズ
「ビーズ・オブ・カレッジ®」

子どもたちが勇気をだして治療を乗り越えていく過程を、色とりどりのガラスビーズで記録していくプログラムです。例えば、採血したときは黒いビーズ、入院は黄色のビーズなど、処置や治療ごとに決められたビーズを勇気の証として受け取り、子どもたち自らつないでいきます。

それによって、自分の治療の過程を、自分自身の物語として語る事ができると考えられています。

小児がんで入院・通院中の方が対象です。ご希望の場合は、保育士、医師、看護師にお声がけください。



写真／認定NPO法人シャイン・オン！キッズ

小児がん

ファミリールーム

入院中の患児のご家族がご利用いただける宿泊施設です。
入院の3日前からご予約可能です。



ファミリールーム
詳細・ご予約はこちら

また、アフラックとがんの子どもを守る会が運営する
「アフラックペアレンツハウス大阪」もご利用いただけます。

わくわくひろば（きょうだい支援室）

入院中の患児にご家族が面会に来られる際、感染防止のために15歳未満のごきょうだいは病棟に入ることができません。そんなごきょうだい安心して楽しく過ごせる場所が「わくわくひろば」です。



◆ 実施日 平日（金曜日は午前のみ、
土・日・祝日・年末年始は休み）

◆ 時間 午前 10:00～12:30
午後 1:30～4:00
※お預かり時間は1時間です

◆ 場所 5階 患者図書室の向かい

◆ 申込 要（前日までに、病棟で予約してください）
詳細は、保育士、病棟師長までお問い合わせください



わくわくひろば
ホームページはこちら

定期健診外来（長期フォローアップ外来）

小児がんの治療の影響がからだやところに長く残ってしまったり、治療終了後新たに出現する「晩期合併症」に対して、適切に予防、治療していくための外来です。

当院の小児血液腫瘍科で受診中の方は、外来主治医が適切なタイミングで定期健診外来の予約をおとりします。

からだの面はもちろん、こころや社会的な面も含めて総合的に支援するため、医師の診察の前に専門の看護師が面談を行います。どんな些細なことでも、お気軽にご相談ください。



長期フォローアップ外来
についてはこちら

がんゲノム医療

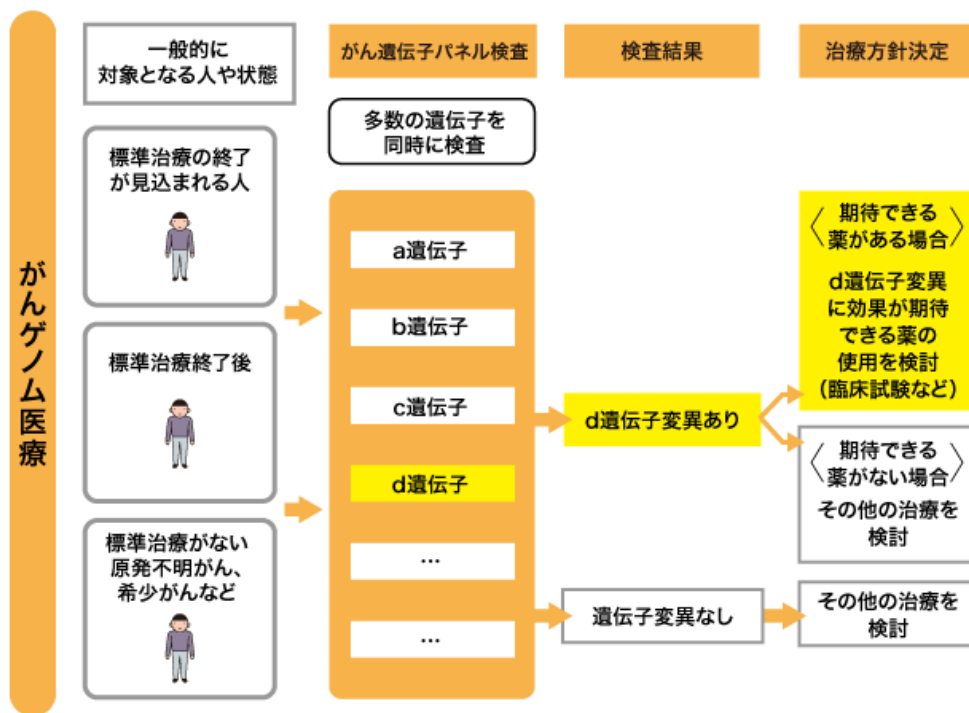
がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べ、遺伝子変異を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療などを行う医療のことです。

一部のがんでは、すでに標準治療として、がんの組織を用いて1つまたはいくつかの遺伝子を調べる「がん遺伝子検査」を行い、遺伝子の変化に対応した薬剤選択が行われています。一方、「**がんゲノム医療**」として**多数の遺伝子を同時に調べる検査である「がん遺伝子パネル検査」**は、その一部が保険診療として、条件を満たす場合に行われています。

固形がんの場合

標準治療がないなどの条件を満たす場合、多数の遺伝子を同時に検査するがん遺伝子パネル検査を実施し、特定の遺伝子が発見された場合は、期待できる薬剤の使用を検討します。

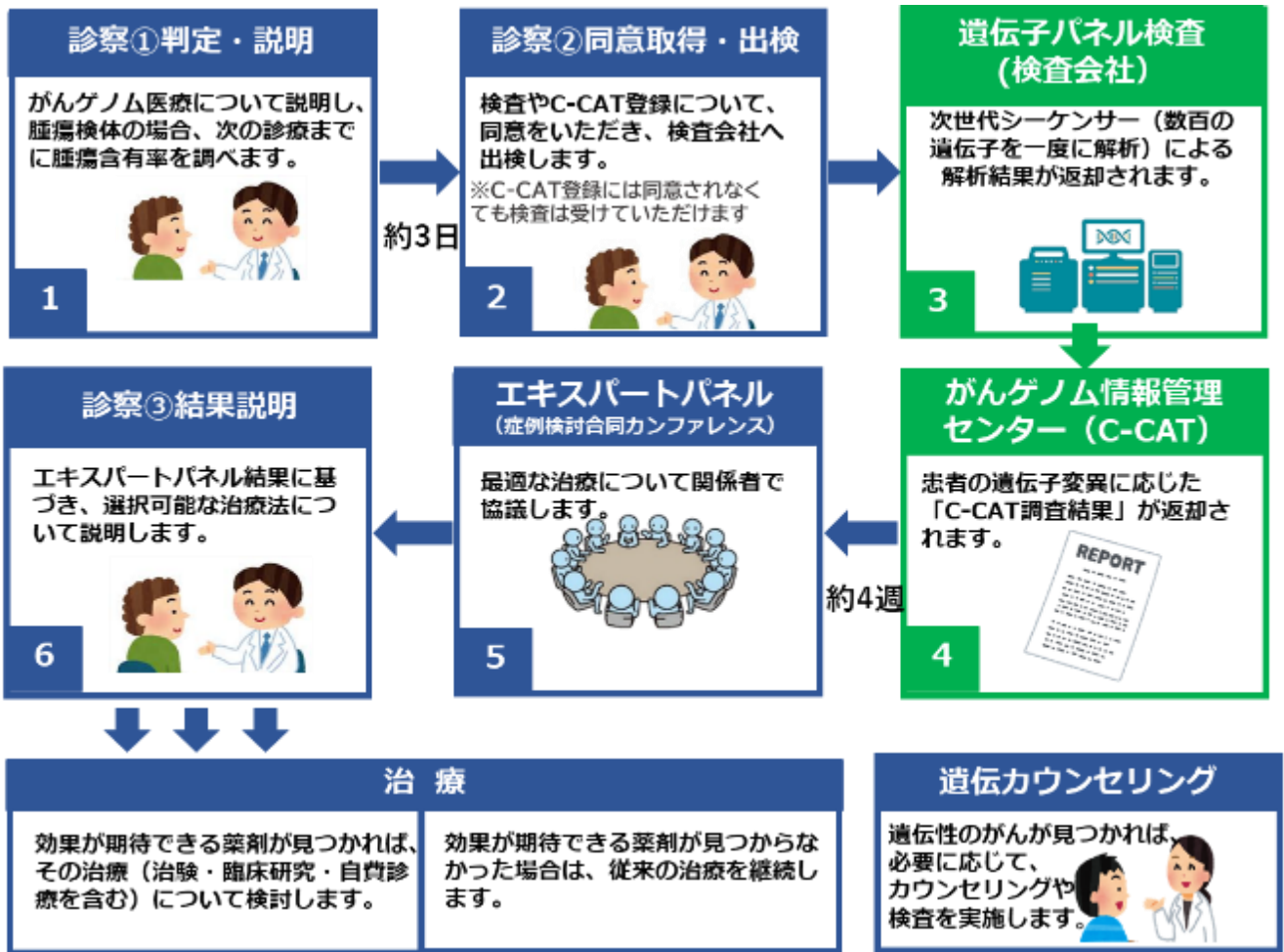
検査のながれ（固形がん）



血液がんの場合

条件を満たす場合、数百種類の遺伝子を同時に調べる遺伝子パネル検査を実施し、がんの特徴的な遺伝子異常を網羅的に一度に検出することで、診断・治療法選択・予後予測に活用することが可能です。

ゲノム医療の実際



遺伝子パネル検査を用いたゲノム医療の診察は3回あります。

診察の1回目はがんゲノム医療について説明を行います。診察だけでは十分に理解ができない場合は、がん相談支援センターでも補足説明やご相談を承ります。

診察の2回目はがんゲノム医療について同意をいただき、遺伝子パネル検査を実施します。遺伝子パネル検査の結果をもとに医師たちにより最適な治療について検討されます。

診察の3回目は選択可能な治療法について説明します。効果が期待される薬剤が見つければ、その治療について検討されますが、効果が期待できる薬剤が見つからない場合もあります。

また、遺伝性のがんが見つければ遺伝カウンセラーによるカウンセリングも受けていただくことができます。

ご希望の方は、まずは主治医にご相談ください。



がんゲノム医療
ホームページはこちら

アピアランスケア

「アピアランス」とは、外見や見た目のことです。

がんの治療にともなう脱毛や皮膚トラブル、爪の変形など、外見の変化に対してサポートすることを「アピアランスケア」といいます。






当院ではパンフレット案内のほか、ウィッグや帽子の展示、医療者との個別相談を行っています。また、不定期で相談ルームを開催しています。詳細は院内掲示のポスター、ホームページをご参照ください。

ご自由に入室いただける場所もございますが、予約が必要な場所へお越しの場合は、事前に主治医や看護師、各受付にお声がけください。

入院中の方は、病棟スタッフにご相談ください。

なお、ウィッグ・帽子の販売については、院内コンビニエンスストア・美容室で行っています。

がん治療による外見の変化に関する情報マップ

| 設置場所 | | パンフレット  | ウィッグ展示  | ぼうし展示  | 物品販売  | 個別相談  |
|------|-------------------------|---|---|--|---|---|
| 12F | 外来化学療法室 待合室 (※) | ウィッグ/スキンケア/爪ケア ○ | ● | ○ | × | 9:30-16:00 ● |
| 5F | 美容室 営業時間：9:00-17:00 | ウィッグ/爪ケア ○ | ○ | ○ | ○ | ピンクリボンアドバイザー ○ |
| 5F | コンビニエンスストア 営業時間：24時間 | × | × | ○ | ○ | × |
| 1F | 玄関前 | ウィッグ ○ | × | × | × | × |
| 1F | がん相談支援センター | ウィッグ ● | × | × | × | ● |
| 1F | 看護外来3 緩和ケアチーム (※) | ウィッグ/補整下着 ● | × | ● | × | ● |

大阪市立総合医療センター がん相談支援センター 2023年10月作成
(※) = 当院通院中の方に限ります

※ ● は要予約です

- 来室前に主治医、外来看護師、各受付へお声かけください。見学や相談対応は外来診療時間に準じます。
- 入院中の方で相談希望の方は、病棟スタッフにご相談ください。

※ ピンクリボンアドバイザーとは？

ピンクリボンアドバイザーは、乳がんに関する知識を習得し、一人ひとりに寄り添うやさしい社会に向けて活動しています。
認定NPO法人乳房健康研究会認定。

施設紹介

外来化学療法室



外来化学療法室
ホームページはこちら

外来（通院）で受けるがん薬物療法を外来化学療法と呼びます。外来化学療法室では、専門知識を持った看護師や薬剤師、その他チームによるサポート体制の下、ゆったりとした空間で治療を受けていただけます。



高層階なので窓から大阪城やあべのハルカスを眺めることができます。

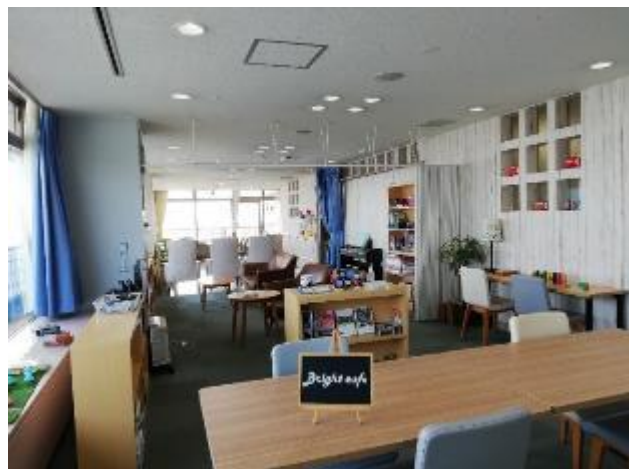
AYA世代病棟

※AYA世代…Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）のこをいい、15歳～39歳の患者

さくら15階病棟は、国内で2番目に開設したAYA世代専門病棟です。

これまで成人と小児の狭間であったAYA世代患者さんが、同じ病気と闘う同世代の仲間と交流することができます。

また、学校や就職に関する相談など、年齢や状況に合ったチームがサポートを行います。



緩和ケア病棟



緩和ケア病棟は18階にある全室個室の病棟です。患者さんの意志を尊重し、身体や心の苦痛の緩和を最優先に考え、ご家族とともに大切な時間を過ごせるよう環境を整えています。

対象のお子さんには、ご家族と共に楽しい雰囲気の中で過ごしていただけるユニバーサル・ワンダー・ルームがあります。



当院でがん治療を受けられる皆様へ

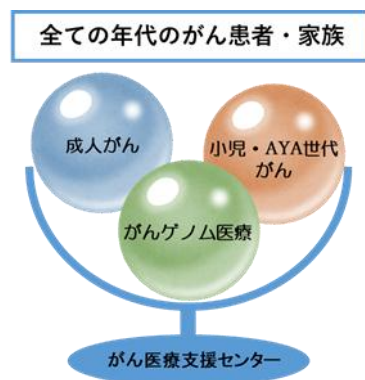
当院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、がんに関する相談の窓口である「がん相談支援センター」が設置されています。当院で治療中の患者さんやご家族の方、その他の施設で治療中の方など、どなたでもご利用いただくことができ、診断や治療の状況にかかわらず、どんなタイミングでもがんに関するさまざまなことを相談することができます。がんの疑いがあると言われたとき、診断から治療、生活や療養、仕事やお金に関すること、気持ちのつらさなど、わからないことや不安を感じたときには一人で悩まず、お気軽に「がん相談支援センター」にご相談ください。専門の相談員が電話や対面相談により、情報提供や相談支援を行います。

当院では医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなど、多くの専門職が患者さんをサポートする体制が整っています。この冊子を手にとってくださり、当院で行っているさまざまなサポートが少しでも皆様のお役に立てることを願っております。



大阪市立総合医療センター
がん医療支援センター長 駄賀 晴子

がん医療支援センターは、
すべての年代のがん患者さんと
そのご家族を支援します。



連絡先

| | |
|----------------------------|------------------------------------|
| 大阪市立総合医療センター | 06-6929-1221 (代表) |
| 大阪市立総合医療センター 予約センター | 06-6929-3634 (直通) 平日 8:45~17:15 |
| 大阪市立総合医療センター がん相談支援センター | 06-6929-3632 (直通) 平日 9:00~16:00 |

追加記入用

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |

MEMO

大阪市立総合医療センターでがん治療を受けるあなたへ

令和6年11月 第1版発行

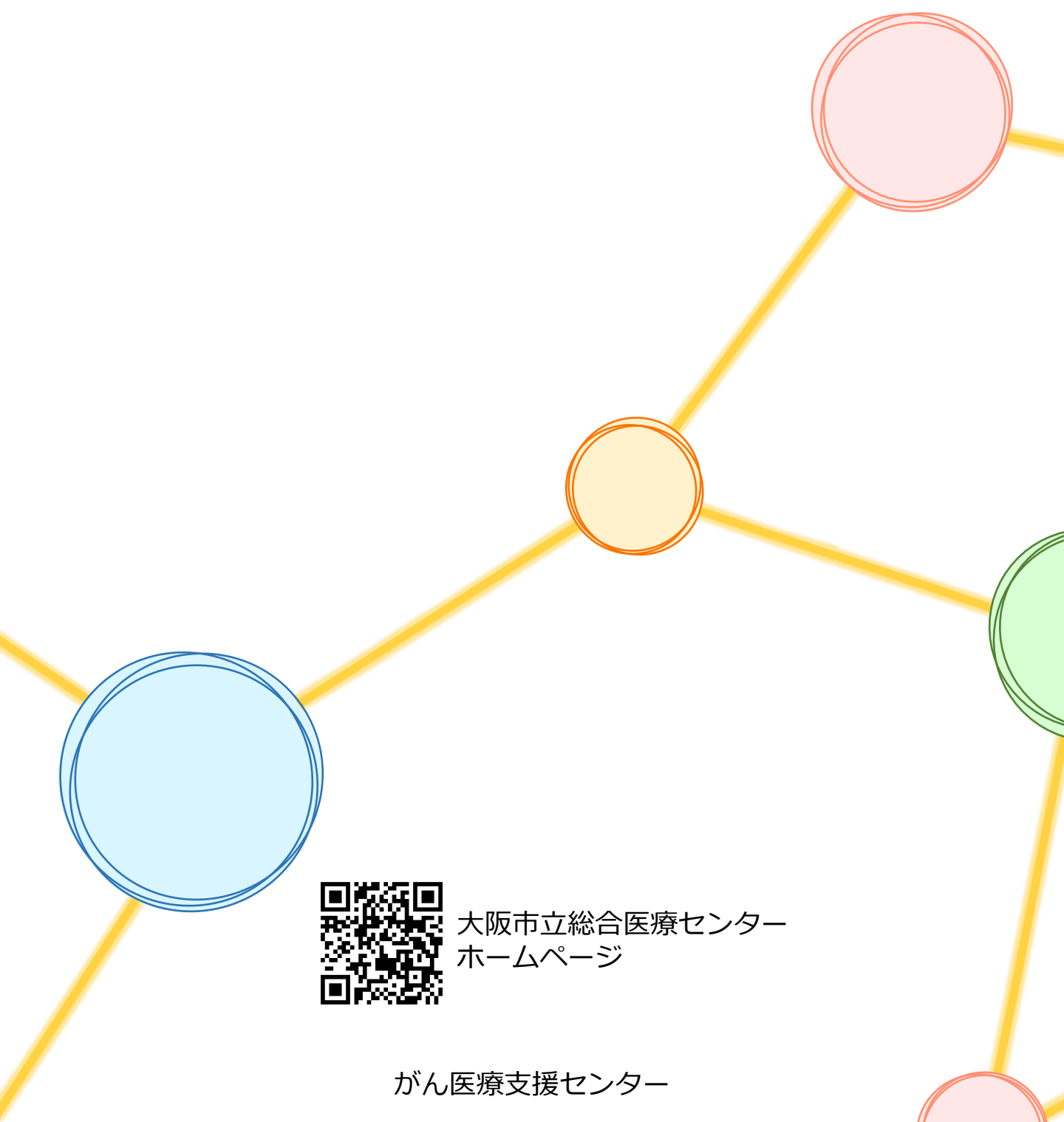
令和8年5月 第2版発行

発行：地方独立行政法人 大阪市民病院機構

大阪市立総合医療センター がん医療支援センター

〒534-0021 大阪府大阪市都島区都島本通2-13-22

TEL：06-6929-1221(代表)



大阪市立総合医療センター
ホームページ

がん医療支援センター